

令3 中学校・高等学校国語（7枚のうち1）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文には一部表記を改めたところ及び省略がある。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令3 中学校・高等学校国語（7枚のうち2）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

（田口茂『現象学という思考』）

- 問一 傍線部②、③、⑥、⑧、⑨の片仮名を漢字に書き改めなさい。
- 問二 空欄X・Yに入ることはを、次のア～カからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 平面 イ 抽象 ウ 全体 エ 部分 オ 立体 カ 具体
- 問三 傍線部⑤「何の齟齬も来すことなく」とあるが、「齟齬を来す」とはどういうことか。解答欄に合うように簡潔に説明しなさい。
- 問四 傍線部①とはどのような構造か。解答欄に合うように、二十字以上二十五字以内のことはを書きなさい。
- 問五 傍線部④とはどういうことか。それを説明した次の文中の空欄A～Cに入ることはを、文中から抜き出して書きなさい。ただし、A、Bは漢字二字、Cは十字以内のことはとする。
- もの見え方は、見る人の **A** や **B** に先立つ **C** によって規定されているということ。
- 問六 傍線部⑦に基づく行動の具体例として適切なものを、次のア～オからすべて選んで、その符号を書きなさい。
- ア 熱いやかんに触れてしまった手をさっと引つ込める。 イ パソコンで文章を書くために滑らかにタイピングをする。
- ウ 食事をするとき器用に箸を操る。 エ 出掛けているとき急に雨が降ってきたので慌てて傘を差す。
- オ 子どもが母親を見つけて「お母さん」と呼ぶ。
- 問七 本文の内容に合わないものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア われわれの日常生活における意識の働きの複雑さと膨大さが、われわれが現象や経験を確かなものと感じる経験を支えている。
- イ われわれの経験が流動的であることによって、われわれが経験を通じて感じる事物の存在の確かさは更新され強化され続ける。
- ウ われわれが日常の経験に対して感じる確かさと、科学的な知見に対してわれわれが感じている確かさは同質のものである。
- エ われわれが流動する現象を意識の働きによって統合する中で、身体的能力性への確かな感じを経験を通じて抱くようになる。
- オ われわれが経験に対して感じる確かさは、各個人の経験の蓄積に伴って変化するので、絶対的なものではない。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文には一部省略したところがある。）

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令3 中学校・高等学校国語 (7枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。)

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

令3 中学校・高等学校国語 (7枚のうち4)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。)

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

(石田衣良『青いエグジット』)

問一 傍線部①、②、⑤、⑥、⑧のカタカナは漢字に、漢字は平仮名に書き改めなさい。

問二 本文中の波線部に含まれる付属語の数を数字で書きなさい。

問三 傍線部③とあるが、謙太郎が「ひとりになりたく」なったのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 現状をひとまず肯定的に捉える真由子と違い、どうしても悲観的な考えになることを自覚し、気持ちを整理しなくなったから。

イ 清人を突き放した目で見ている自分とは違って、心から清人に寄りそおうとする真由子の苦勞を察し、いたたまれなくなったから。

ウ 自分のことに精一杯で、手がかかる清人のことを真由子に任せっきりにしていた自分を恥じ、この場にいづらく感じたから。

エ 自分が清人の将来を案じて思い悩んでいるときに、目先のことで無邪気に喜ぶ真由子の無神経さから距離を取りたくなったから。

オ 清人の機嫌の良さなど一時的なものに過ぎないことすら真由子が理解していないと気づき、家族の中での孤立を感じたから。

問四 傍線部④とあるが、このとき謙太郎がわかったこととはどのようなことか。四十字以内で書きなさい。

問五 傍線部⑦について、このときの清人の様子の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 怪我をする前から両親に過大な負担をかけていることに対する引け目を感じていたため、プレゼントに対する父親からの礼に対してきまりの悪さを感じているが、その一方で今回の体験を通じて触れた人のあたたかさに対する喜びを隠せずにいる。

イ ダイビングをするのに要した費用に不釣り合いなプレゼントに過ぎないので、お礼の言葉を真に受けるつもりはないが、海の中で両親のために必死でプレゼントになるものを探した苦勞が認められたことを父親の表情から察し、満足している。

ウ これまでさんざん両親に反抗してきた手前、プレゼントを喜んでもらえたからといって素直にうれしさを表現することはためらわれるが、ようやく両親と和解するきっかけがつかめたことについては素直に喜びを表現してもよいと感じている。

令3 中学校・高等学校国語（7枚のうち5）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

工 普段自分に対して無関心な態度を貫いていることもあり、父親には自分の気持ちなど伝わるはずがないと思っていたが、その父親が自分が贈ったつまらないプレゼントを喜ぶ姿は、清人にとって意外であると同時にうれしいことだと感じている。

オ 父親から礼を言われたことで、これまでになく素直に両親に感謝を伝えることができていたことを改めて意識し、気恥ずかしく思うとともに、人の善意を頼ってでも行動を起こすことに可能性を見出したこともあり、率直に喜びを表現している。

問六 傍線部⑨の理由の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 海の中の体験を語る清人の充実した表情から、ダイビングを通じてなら清人に父親らしい姿を見せることができ、失われた清人からの信頼を回復することもできると感じ、今は何を言われても黙って耐えていようと思うことができたから。

イ 海の中の体験を語る清人の言葉にうそはないと感じた謙太郎は、ダイビングを通じて父親としてではなく一人の人間として清人と向き合えば、清人が世の中の機微を知るきっかけになると確信し、清人の軽口など意に介することもなかったから。

ウ 海の中の体験を語る清人の言葉から、謙太郎は、清人が本心では自分とダイビングをすることで新たな一歩を踏み出そうと望んでいることを感じ取り、清人の皮肉も自分を頼る気持ちの裏返しに過ぎないと考えると、腹も立たなかったから。

エ 海の中の体験を語る清人の態度からは、新しい生活に踏み出そうとする清人の確かな決意が感じられ、これまで清人との関係に思い悩んできた謙太郎は、苦勞が報われたという感慨に胸が一杯になり、清人のからかいも耳に届かなかったから。

オ 海の中の体験を語る清人の充実した口ぶりから、今度こそ途中で投げ出すことはあるまいと見極めた謙太郎は、ダイビングを通じて清人と心を通わせるまでの軌跡を思い描き、自分を茶化すような清人の冗談などほとんど気にならなかったから。

三 中納言の娘の姫君は実母を亡くし、継母とその二人の娘と暮らしている。右大臣の息子である少将殿は姫君に思いを寄せ、文を届けようとする。これに続く次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

さて、出でざまに、筑前、侍従を呼び出だして、「右の大殿の御子に、少将殿と申す人の御文なり。かやうの事は、口入れしにくく侍りながら、やんごとなき人の、いたく仰せらるる事の、否おほいみがたさに」と言へば、「いさや。おほえずながら、のたまひ合はする事なれば」とて、姫君に、「しかしかの文」とて、引きひろげて、御かたはらに置きたれば、御顔うちあかめて、とかくの御事も聞こえ給はねば、ことわりと思ひて、「かく」と申せば、筑前、少将殿に参りて、ありのままに聞きこゆれば、「さてもさても、いかが生ひいでさせ給ひたる」と問へば、「まことに、この世ならず、かたはら光るほどになん。琴の音、掻き鳴らしておはしましたしに、筑前、参りて、その昔の事ども、人々語らひ侍りしかば、母宮の御事ども、折々歎き給ひし御姿、言へばおろかにこそ。女郎花の露おもげにて、籬の外に倒れ出でたる心地して、その事となく、あはれに、いとほしく、よその袂までも露けく候ひつる」と申しければ、少将はいよいよおほしつきて、「いかにしてか、あひ見みん」とぞ歎き給ひける。

「はじめは、文参らせたりとも、さこそあらんずれ。なほ文参らせ、よきやうにたばかり給へ。この事かなへたらば、この世ならず嬉しくこそ思はんずれ。心よきやうに申せ」とて、

たちかへりなほぞ、恨むむるつらしとて思ひ捨つべきわが身ならねば

と書きて、例の筑前に給ひたれば、持ちて参りたりければ、「ならはせ給はねば、いみじくわびしげにおぼしたる事の、いとほしさに」など言へば、筑前、「おのれも、いやしき事ならば、何しに申さんずるに。おほえ少なき御宮仕へよりは、この公達におはしまさば、^①なかなかめやすき事にてこそ。承る様にては、その御宮仕への御ことも、かたくこそ。この少将殿は、今の后の御兄せうとなれば、ただ今世に出で給はんずる人なり。御かかたちよりはじめて、何はのことにつけても、等③しき人やおはする。御ためうしろめたき事をば、いかでか」と言へば、「いさや、中納言殿も、内参りの事より外に、^②のたまはず。なみなみならんさまに、おほし寄らん事は、よも」と言へば、姫君、嬉しと聞き給へり。

（『住吉物語』）

（注）何はのことにつけても——何事につけても。

問一 二重傍線部A「倒れ出で」、B「見」、C「恨むる」、の動詞の活用の種類として適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 四段活用 イ 上一段活用 ウ 上二段活用 エ 下一段活用 オ 下二段活用

問二 傍線部①「なかなか」、②「かたち」の意味を書きなさい。

問三 傍線部③「等しき人やおはする」を、誰に「等しき人」なのかを明示して現代語訳しなさい。

問四 波線部の敬語表現X「聞こゆれば」、Y「参りたりければ」、Z「のたまはず」について、それぞれの敬意の対象として適切な人物を、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 少将 イ 筑前 ウ 中納言 エ 姫君 オ 侍従

問五 「たちかへり…」の和歌について、次の問いに答えなさい。

- (1) この和歌は何句切れか。適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 初句切れ イ 二句切れ ウ 三句切れ エ 四句切れ オ 句切れなし
- (2) この和歌中の「つらし」の説明として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 来ない手紙の返事待つ少将の苦しさを表している。 イ 手紙の返事をくれない姫君の薄情さを表している。
- ウ 手紙の返事がうまく書けない姫君のつらさを表している。 エ 手紙の返事を出さない少将のつれなさを表している。

令3 中学校・高等学校国語（7枚のうち6）

（解答はすべて、解答题用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

問六 本文の内容に合致するものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 姫君は、父である中納言が自分を帝の妻として宮仕えに出すつもりだという侍従の話聞き、とても嬉しく思った。
- イ 少将は、琴を弾く姫君の美しい様子を女郎花にたとえる筑前の報告を聞いて、姫君への思いをますます募らせた。
- ウ 侍従は、筑前の申し出が姫君の入内の妨げになるのではという不安を抱えながら、少将からの文を姫君に取り次いだ。
- エ 筑前は、帝の寵愛の薄い更衣などになるより、将来を約束された少将の妻になる方が姫君のためになると主張した。

四 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。（設問の都合上、一部訓点を省略したところがある。）

無終子嘉父使孟樂因魏莊子納虎豹之皮、以和諸戎。
公曰、「戎狄親而好得。不若伐之。」魏絳曰、「勞師於
戎、而失諸華、雖有功、猶得獸而失人也。安用之。且夫戎狄
荐処、貴貨而易土。予之貨而獲其土、其利一也。辺鄙耕
農不傲、其利二也。戎狄事晋、四隣莫不震動、其利三也。君
其凶之。」公説。故使魏絳撫諸戎。於是乎遂霸。

（国語一）

（注）無終子嘉父——無終山戎の長。 孟樂——戎狄からの使者。戎狄は中国周辺の異民族のこと。

魏莊子——中国春秋時代の晋の武将。魏絳とも呼ばれる。 公——悼公。中国春秋時代の晋の君主。

荐処——群れて生活すること。 傲——侵略に備え戒めること。

問一 傍線部①、⑤、⑥の漢字の読みを現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。

問二 傍線部②を「之」の内容を明らかにして口語訳しなさい。

問三 傍線部③をすべて現代仮名遣いのひらがなで書き下しなさい。

問四 傍線部④について次の問いに答えなさい。

(1) 「なほけものをえててひとをうしなふがごとし」と訓読する。この読みになるように、解答欄に訓点を施しなさい。

(2) この部分が意味している内容として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 魏莊子の進言を取り入れることと引き換えに、君主としての権威が失われること。

イ 勇猛な戎狄の将を手に入れることと引き換えに、大切な農民を失ってしまうこと。

ウ 戎狄との戦争に勝利することと引き換えに、多くの諸侯を失うこと。

エ 戎狄からの独立を守ることと引き換えに、辺境の農民が常に侵略を恐れねばならないこと。

問五 傍線部⑦について、魏莊子がこのように考えるのは、戎狄のある特徴に起因しているからであると述べられている。その特徴を本文中から五字で抜き出さない。

問六 傍線部⑧の解釈として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 四方近隣の諸侯が誰も脅威を感じないのは、

イ 四方近隣の諸侯がみな脅威を感じるの、

ウ 四方近隣の諸侯に脅威を感じているのは、

エ 四方近隣の諸侯に脅威を感じさせる方法がないのは、

問七 傍線部⑨について、悼公が覇者となった理由として適当なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 悼公が戦いを避けて和睦することによって、逆に戎狄を従わせることに成功したから。

イ 悼公が晋と親交を結ぼうとしない戎狄に立腹し、圧倒的な武力で滅ぼしたから。

ウ 悼公が戎狄の勢力に恐れおののき、献上品を送って戎狄を懐柔しようとしたから

エ 悼公が戎狄との交流を絶つことで、近隣の諸侯へ全精力を傾けることができたから。

令3 中学校・高等学校国語 模範解答

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
エ	イ・ウ	A	同一の事物が見方に応じてさまざまな仕方で見られること。	二つのものごとが食い違って合わなくなる	X	②
		思考			オ	
		B	身体的な能力性の意識	こと。	Y	③
		推論			ア	
		C				⑥
						促し
						⑧
						漕
						い
						⑨
						対向

総計	200
一	60

問六	問五	問四	問三	問二	問一
イ	オ	ていたといふこと。	ア	6	①
					清人を守らなければならぬ
		う。			②
					土砂降り
		う。			つ
					か
		う。			懸命
					⑧
		う。			⑧

二	50
---	----

問六	問五	問四	問三	問二	問一
エ	(2)	(1)	X	③	①
	イ	イ	ア	少将に並ぶ人がいらつしやるだろうか、いやいらつしやるまい。	かえって
			ア		オ
			Y		B
			エ		イ
			Z		C
			ウ		ウ
				②	容貌

三	50
---	----

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
ア	イ	貴貨而易土	(2)	こうありといえども	戎狄を征伐した方がよい。	①
		ウ	(1)			よ
			猶 ^シ 得 ^レ 獸 ^ヲ 而失 ^レ 人也 ^ヲ 。			⑤
						い
						ず
						く
						ん
						ぞ
						⑥
						そ
						れ

四	40
---	----